

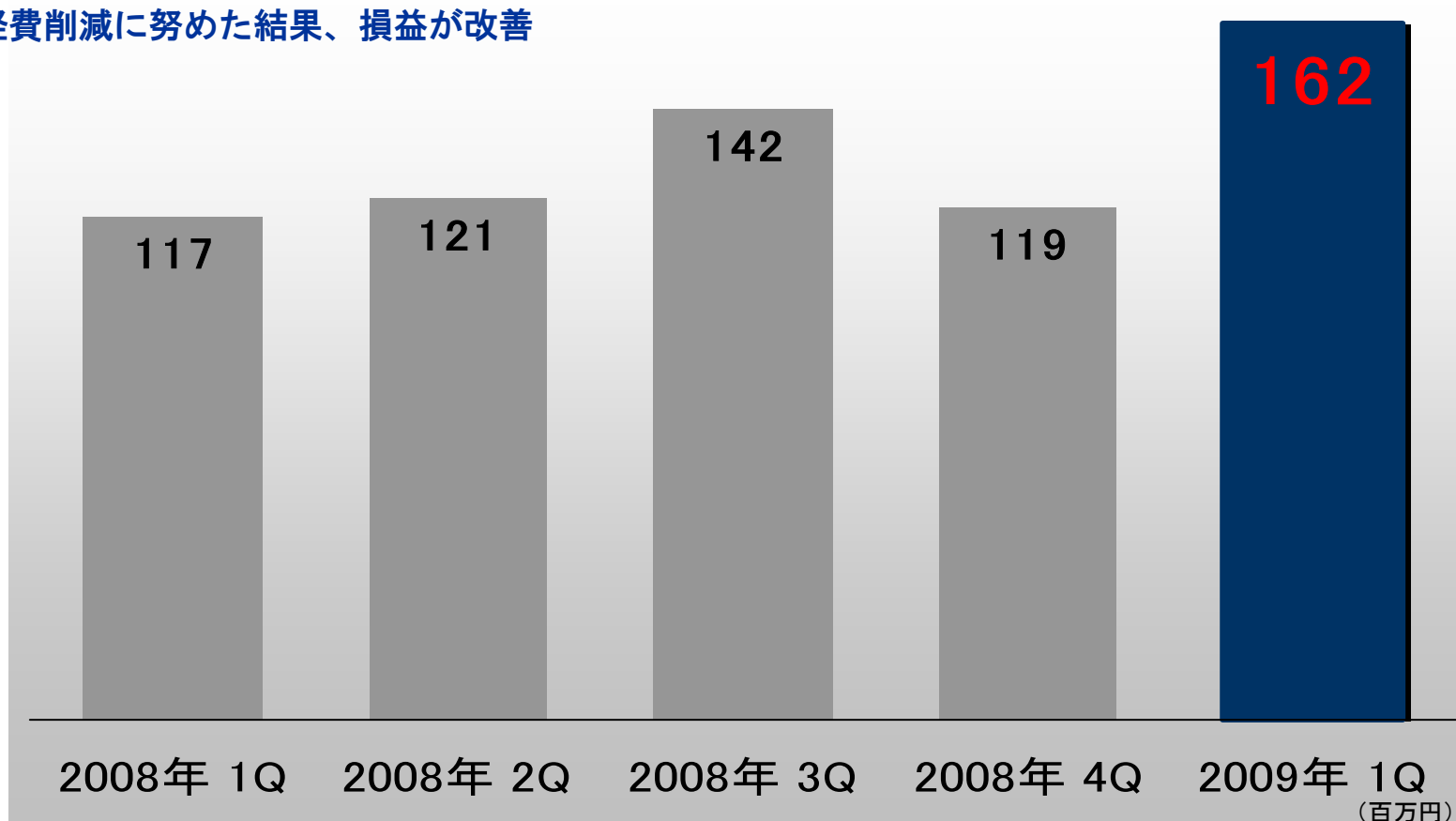
平成21年12月期 第1四半期決算のご報告

カルナバイオサイエンス株式会社



景気後退、製薬業界の研究開発費削減のなか、売上、営業利益とも順調に推移

- ✓売上：国内プロファイリングサービス、国内アッセイ開発が順調
- ✓損益：経費削減に努めた結果、損益が改善



四半期別売上高(2008年12月期～2009年12月期第1四半期)※

※2008年12月期第1四半期は単独、2008年12月期2四半期以降は連結

売上高162百万円

■国内売上の増加(国内比率67.5%) 既存顧客である大手製薬会社への売上が伸長

■商品別売上では

プロファイリング・スクリーニングの受託 及び アッセイ開発が順調

プロファイリング:付加価値の高い測定結果を提供した結果、受注増

アッセイ開発 :ビジネスパートナーであるキャリパー社※の測定機器を利用中の製薬企業に、

当社のキットを試用していただく販売活動により受注増 ※Galiper Life Sciences, Inc.

■和光純薬工業との販売代理店契約締結の効果として、大学等の研究機関からの引き合いが増加

■海外では、認知度が向上し、タンパク質のバルクオーダーが増加

■年間プロファイリング契約に向け スポット契約から年間契約への切替の提案を進めた
大型プロジェクトにも積極的に入札

営業損失83百万円、経常損失79百万円、当期純損失82百万円

■不要不急な購買品目の見直しや旅費交通費の削減などにより、営業損益が改善

トピックス

■和光純薬工業と販売代理店契約を締結(2009年1月13日)

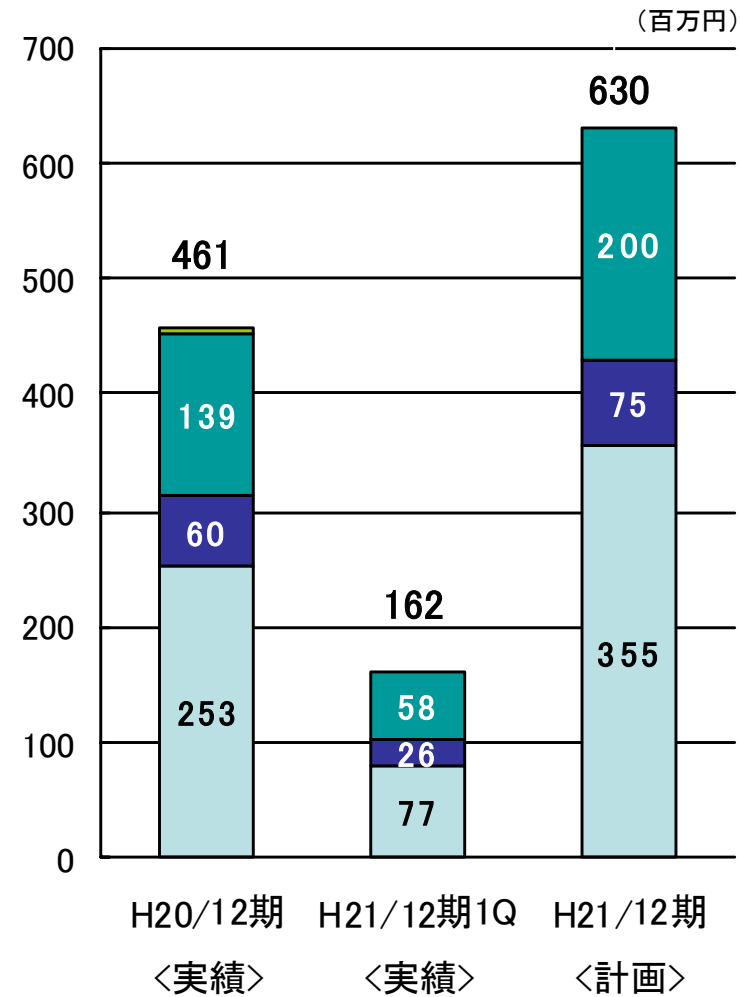
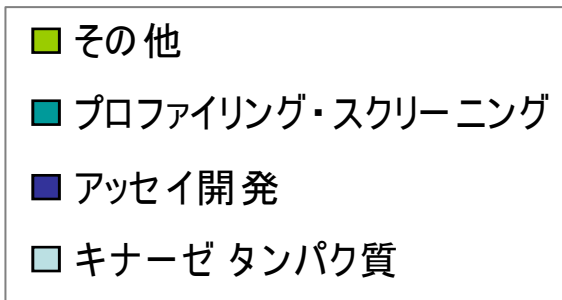
■慶應義塾大学との共同研究を開始(2009年1月14日)

第1四半期（2009年1月～3月）の業績の概況

（百万円）

		2009年12月期 1Q(1月～3月)	2008年12月期 1Q(1月～3月)／比		2009年12月期 通期計画
売上	創薬支援事業	162	117	138.7%	630
	創薬事業	0	—	—	80
	合計	162	117	138.9%	710
売上原価		52	29	179.4%	231
売上総利益		110	88	125.5%	479
販管費	研究開発費	87	55	159.6%	400
	販管費(研究開発費を除く)	106	81	131.0%	545
	合計	194	136	142.6%	945
営業利益		△83	△48	173.7%	△466
営業外利益		4	△45	—	67
経常利益		△79	△93	84.8%	△399
特別損失		△3	0	—	7
当期純利益		△82	△94	88.1%	△393

2008年12月中間期より連結財務諸表を作成しているため、
2008年12月期1Qは個別財務諸表の表記となります。



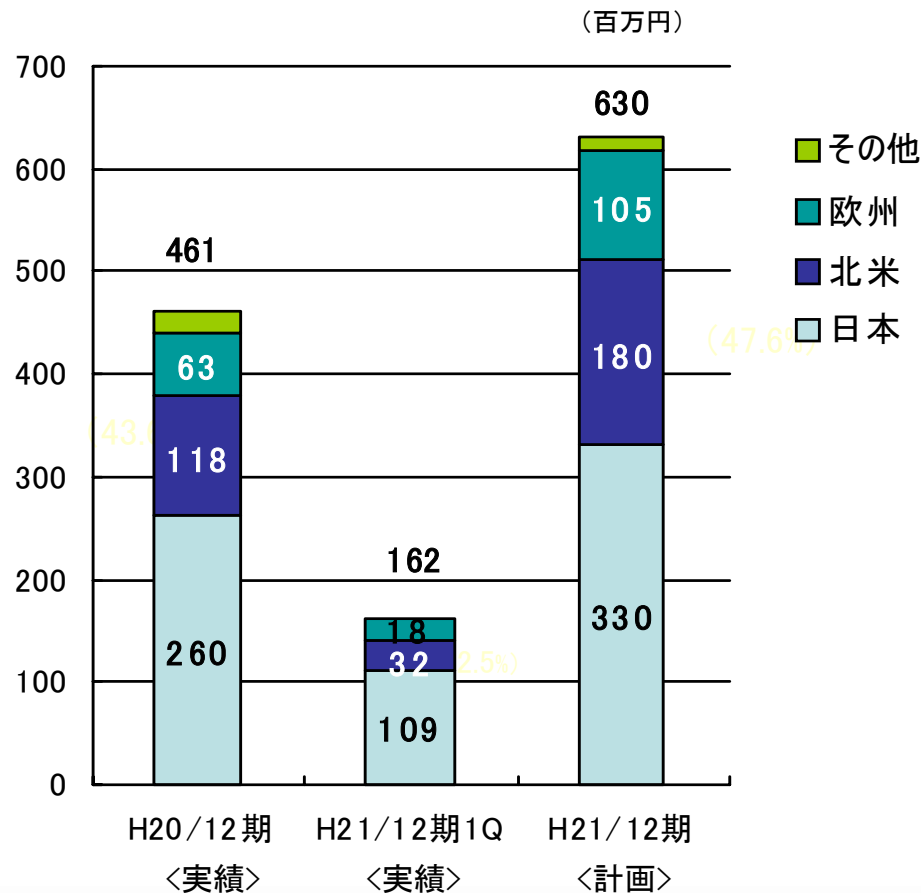
■国内売上が順調に推移

国内での既存顧客に対する顧客満足度向上に努めた
和光純薬工業(販売代理店)による大学等研究機関の開拓が進んだ



大手製薬企業と研究機関等からの受注が増加
国内売上比率が上昇

国内プロファイリング・スクリーニングサービス
57百万円
国内アッセイ開発の売上
21百万円



■海外売上も計画通りに推移

北米・・・アッセイ開発の売上が伸びる
欧州・・・代理店経由のキナーゼ売上が順調
中国・・・順調なすべりだし

(百万円/%)

	09年1Q		08年12月末		増減額
		構成比		構成比	
流動資産	1,518	80.3	1,705	82.4	-187
現金及び預金	716	37.9	831	40.2	-115
有価証券	600	31.7	700	33.8	-100
その他	202	10.7	174	8.4	28
固定資産	371	19.6	365	17.6	6
資産合計	1,890	100.0	2,070	100	-180
負債合計	160	8.5	281	13.6	-121
株主資本計	1,712	90.6	1,795	86.7	-83
評価・換算差額等	19	1.0	△6	-	25
負債・資本合計	1,890	100.0	2,070	100.0	-180

借入金は返済済みで、
残高ゼロです

株式上場前の保有資金に加え、上場時の公募増資により、第1四半期末時点で手元流動性は1,317百万円と十分にあります
内訳は、現金及び預金716百万円と有価証券600百万円であり、いずれも極めて低リスクの金融商品で運用
(⇒3ヶ月以内の定期預金・普通預金等617百万円+3ヶ月超定期預金100百万円+有価証券(=現金同等物)600百万円)

現金同等物とは、「価格変動について僅少なりリスクしか負わない3ヶ月以内に償還期限(満期)が到来する短期投資」です

当期の目標である **5つの研究テーマの中から1つのステージアップ(探索⇒前臨床(又は導出))** を実現すべく、ガン及び免疫炎症性疾患を創薬重点領域として、
 自社研究に加えて、国立がんセンター及び他社との共同研究が計画通りに進んでおります。

5つの研究テーマそれぞれにおいて、目的とするキナーゼを強力にかつ選択的に阻害する化合物を探索しているだけでなく、細胞や動物を用いた薬効評価試験を行ない、効果の高い化合物を選んでいます。さらに、化合物の物理化学的性質、細胞膜の透過性および肝臓での代謝安定性等の向上を図り、医薬品として適した特性を持った前臨床候補化合物の絞り込みを行っております。これらの研究は計画通りに進んでおります。

研究と平行して、国内外の製薬企業の研究企画、ライセンス部門とのネットワークを構築し、導入候補企業との接触や情報交換を通して導出の機会を高める活動を行ってまいります。

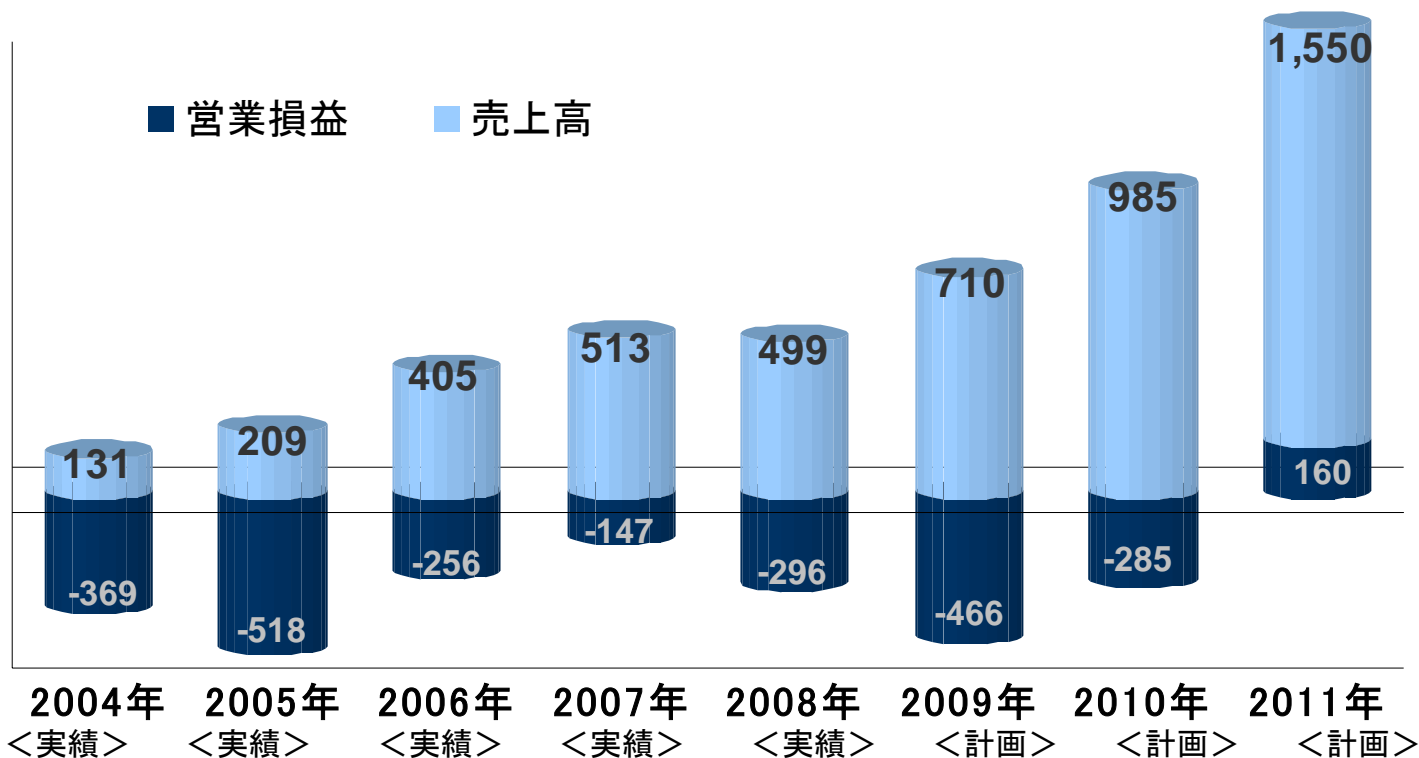
ステージアップ	探索⇒前臨床(又は導出)		1
研究テーマ数		5	5
		平成21年12月期 第1四半期	平成21年12月期 通期計画



中期計画についてのご説明

(百万円)

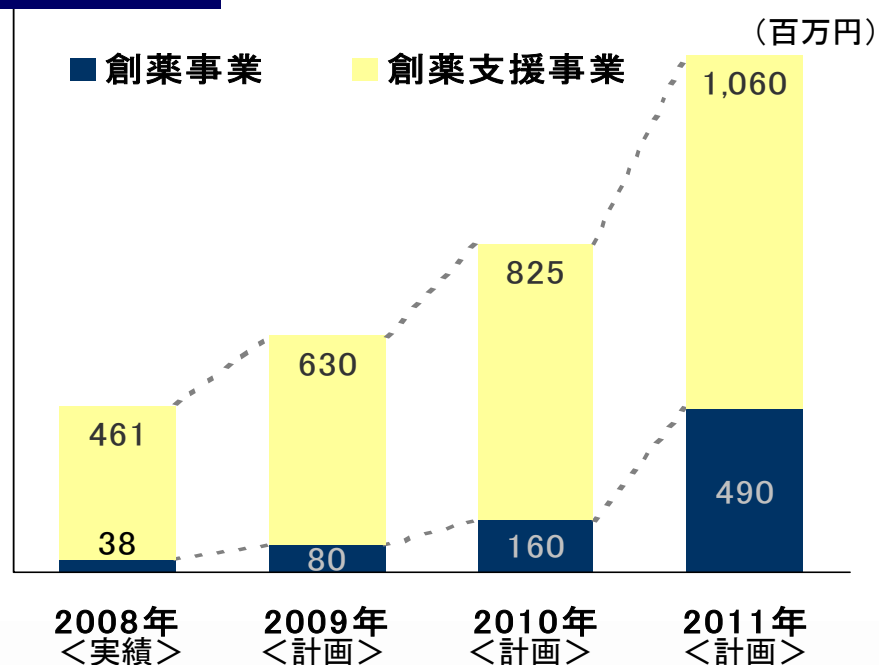
全社	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2009年12月期(計画)	710	△466	△399	△393
2010年12月期(目標)	985	△285	△285	△301
2011年12月期(目標)	1,550	160	166	144



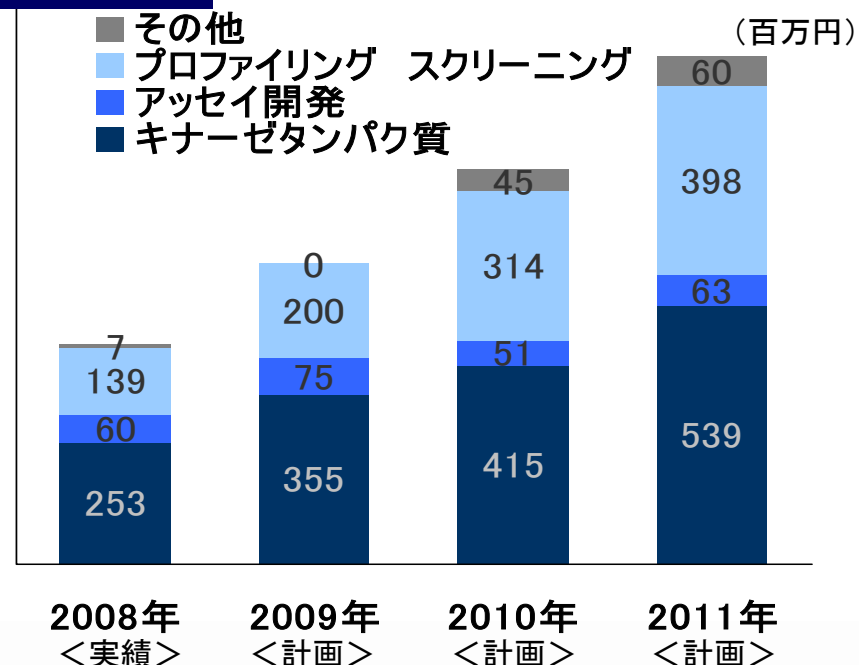
(百万円)

事業別	売上高		営業利益	
	創薬支援事業	創薬事業	創薬支援事業	創薬事業
2009年12月(計画)	630	80	33	△499
2010年12月(目標)	825	160	158	△443
2011年12月(目標)	1,060	490	302	△142

事業別計画



商品別計画



主力3つの製品及びサービスである、キナーゼタンパク質、アッセイ開発(アッセイキットおよびアッセイ系開発サービス)、プロファイリング・スクリーニングサービスの提供・販売を拡大

参考:取引社数(2009年1月1日~3月31日実績)

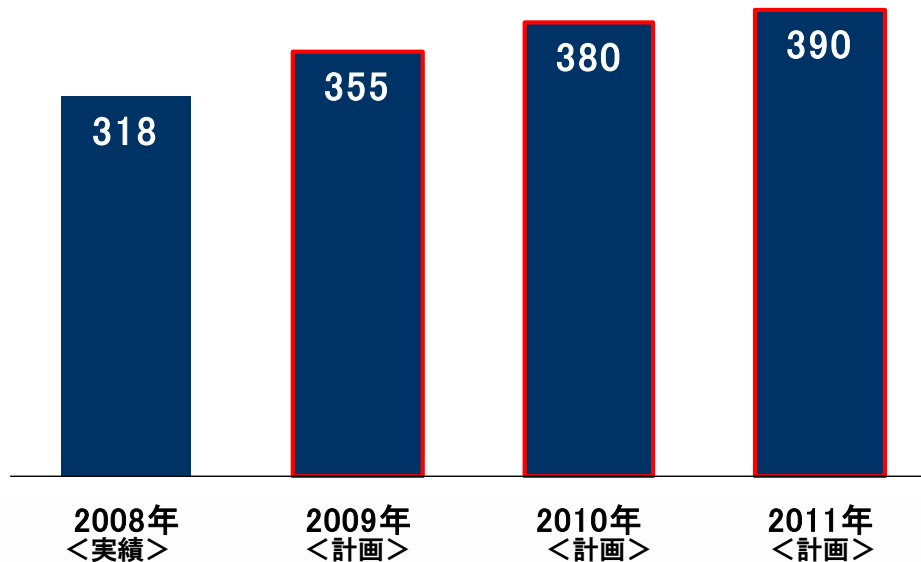
- 顧客ニーズに基づいた製品・サービスのメニューの拡充
- 製薬企業との年間契約獲得
- 新規顧客の開拓

日本顧客	北米顧客	欧州顧客	その他	合計
42社	40社	10社	2社	94社

【キナーゼタンパク質 開発の計画】

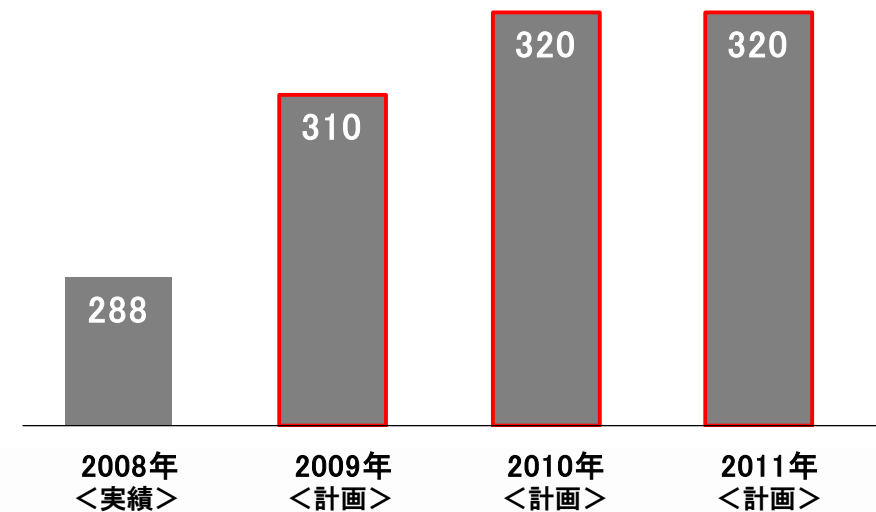
タンパク質キナーゼ、脂質キナーゼ、結晶化用キナーゼ

(種類)



【アッセイ開発の計画】

(種類)



創薬基盤技術を駆使し、創薬研究期間を短縮化 早いタイミングでキナーゼ阻害薬の新薬候補化合物を創製して、早期導出を目指す

創薬の研究スペース拡充、人員拡充および最新設備への投資が平成20年度に前倒しで完了

- リソースを最大限に生かすため、ガンおよび免疫炎症性疾患を創薬重点領域とし、アカデミックや製薬企業との共同研究活用による研究効率化、**成功確率の向上**を目指す。
- 新規性の高いターゲットに関しても、基礎研究により創薬ターゲットとしての有効性を確認し、収益性の高い**first-in-class**を目指した自社創薬研究として積極的に研究活動を推進する。
- 探索研究段階後期にあるテーマについて早期導出を目指すとともに、探索段階初期にあるテーマについても、毎年1品目以上のステージアップを目標とする。
- さらに提携・導出戦略の積極的展開を進め、早期に創薬事業の体力強化を図る。
- 通常創薬研究では、導出・ドロップアウト等によりテーマ数が減少することがあるが、常に基礎研究段階に予備テーマを配置することにより、切れ目のないパイプラインの充足を目指す。

ステージ アップ数	前臨床⇒臨床(又は導出)			1	1
	探索⇒前臨床(又は導出)		1	1	1
研究テーマ数		5	5	5	5
		平成20年	平成21年	平成22年	平成23年

会社概要 その他補足資料



■会社名: カルナバイオサイエンス株式会社
(英文社名: :Carna Biosciences, Inc.)

■代表者名: 代表取締役社長
吉野公一郎

■設立: 2003年4月10日
(日本オルガノンからスピンオフ)
2003年10月業務開始

■上場日: 2008年3月25日
■資本金: 19億6,457万円
■発行済株式数: 53,270株
■役員及び従業員数: 57名
■所在地: 神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F
神戸バイオメディカル創造センター研究棟内(ポートアイランド内)
■事業内容: キナーゼをターゲットとした
創薬事業および創薬支援事業



神戸市ではポートアイランドにおいて先端医療技術の研究開発拠点を整備し、産学官連携により21世紀の成長産業である医療関連産業の集積を図る「神戸医療産業都市構想」を推進している。
150を超える医療関連企業が進出し、ライフサイエンス分野のクラスター(集積拠点)として整備がすすめられている。



■現地法人名: CarnaBio USA, Inc.

■代表者名: 原 隆 (当社取締役営業部長)

■設 立: 2008年4月21日
2008年6月9日業務開始

■資 本 金: 40万ドル

■所 在 地: 209 West Center Street, Suite 127,
ネイティック市 マサチューセッツ州

■事務所規模: 708sq.ft.(スクエアフィート)

■人 員: 4名〔駐在員1名、現地スタッフ2名、米国CPA1名〕

■業 務 内 容: 北米地域における
1. 顧客へのカルナ製品・サービスの販売代理業務
2. 顧客開拓活動(顧客訪問・DM等による)業務
3. 北米で開催される展示会への出展業務
4. 市場動向調査業務

■大株主および所有割合:カルナバイオサイエンス(株) 100%



基本理念

カルナバイオサイエンスは人々の命を守り、健康に貢献することを目指します

行動基準

1 誠実に徹し、強い信頼関係を築く

2 常に最善を尽くし、困難を克服する

3 個性を尊重し、創造力を発揮する

『カルナは、人間の健康を守る女神です』

カルナバイオサイエンスの社名である「カルナ(Carna)」は、ローマ神話の「人間の健康を守る女神」です。

また「身体の諸器官を働かせる女神」、「人間生活の保護女神」などとも言われています。

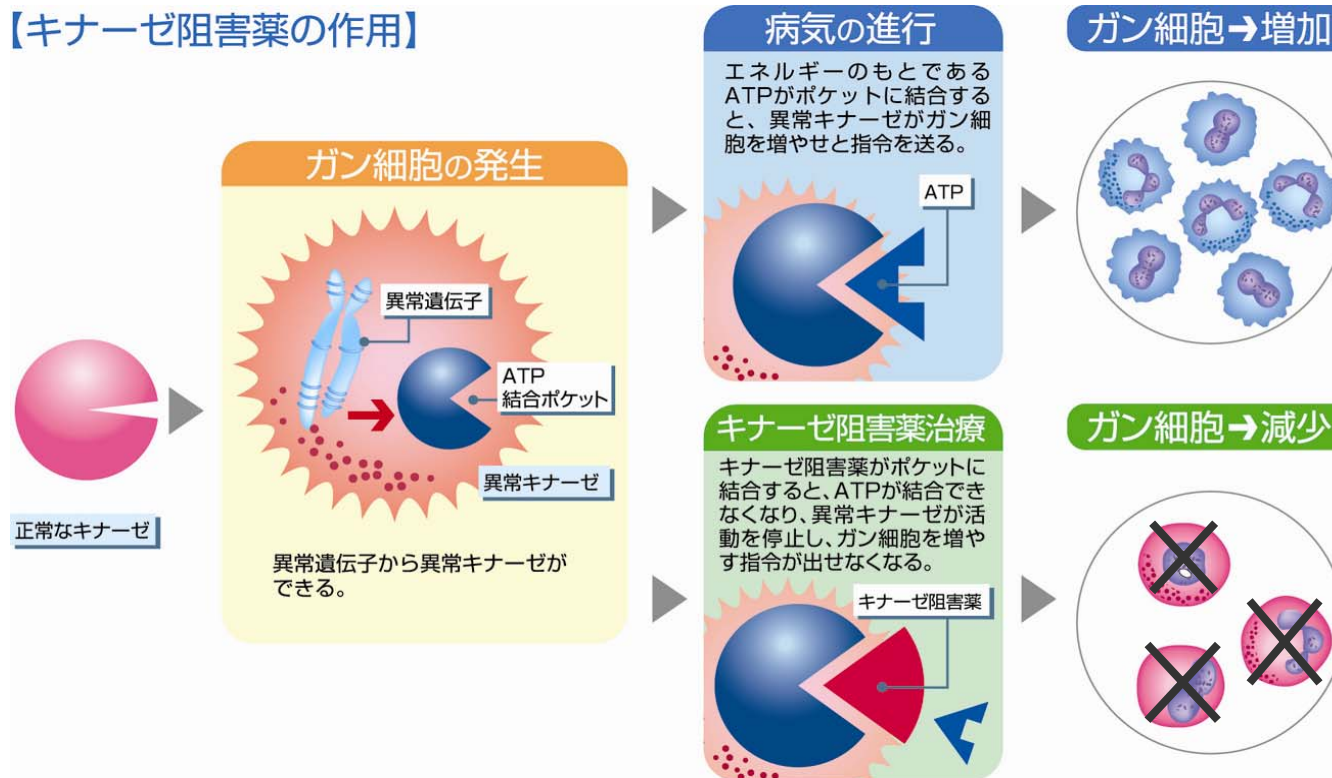
当社は生命科学「バイオサイエンス(Bioscience)」を探究することで「人々の命を守り、健康に貢献することを目指す。」ことを基本理念としています。

当社はまさに「カルナ(Carna)」でありたいと思っています。

カルナバイオサイエンスはキナーゼに的を絞り、創薬基盤技術を徹底的に強化し、医薬品の創製を目指します。

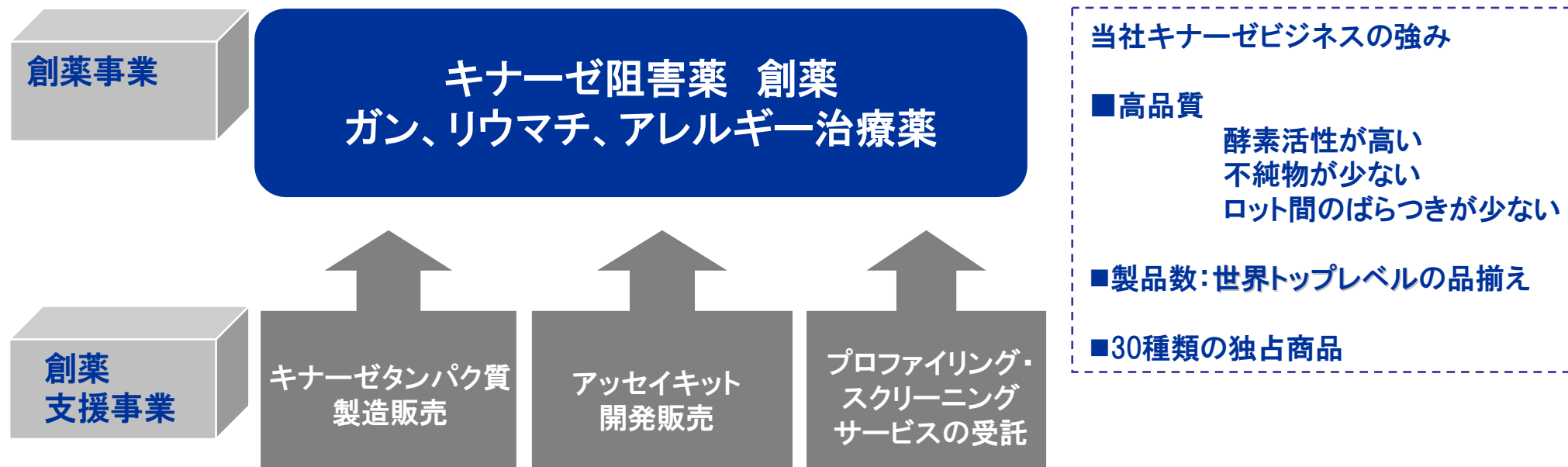


【キナーゼ阻害薬の作用】



- キナーゼ(プロテインキナーゼ)はタンパク質の一種で、他のタンパク質にリン酸基を付加する酵素
- 人の体内には少なくとも518種類のキナーゼが存在する
- キナーゼが働きすぎると、ガン、リウマチ、アレルギー、アルツハイマー病など種々の病気が引き起こされる

カルナバイオサイエンスの事業内容



創薬支援事業: キナーゼタンパク質

当 社	Invitrogen社	Upstate社
321種類	285種類	223種類

当社データは2009年3月末現在
他社データは2008年9月末現在

キナーゼ遺伝子の取得

遺伝子の加工

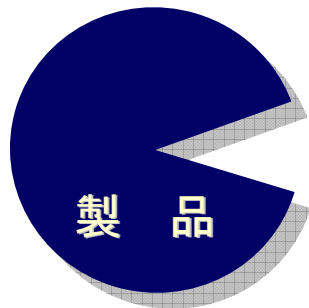
遺伝子を昆虫細胞へ導入



昆虫細胞の培養準備



昆虫細胞の培養
(キナーゼの製造)



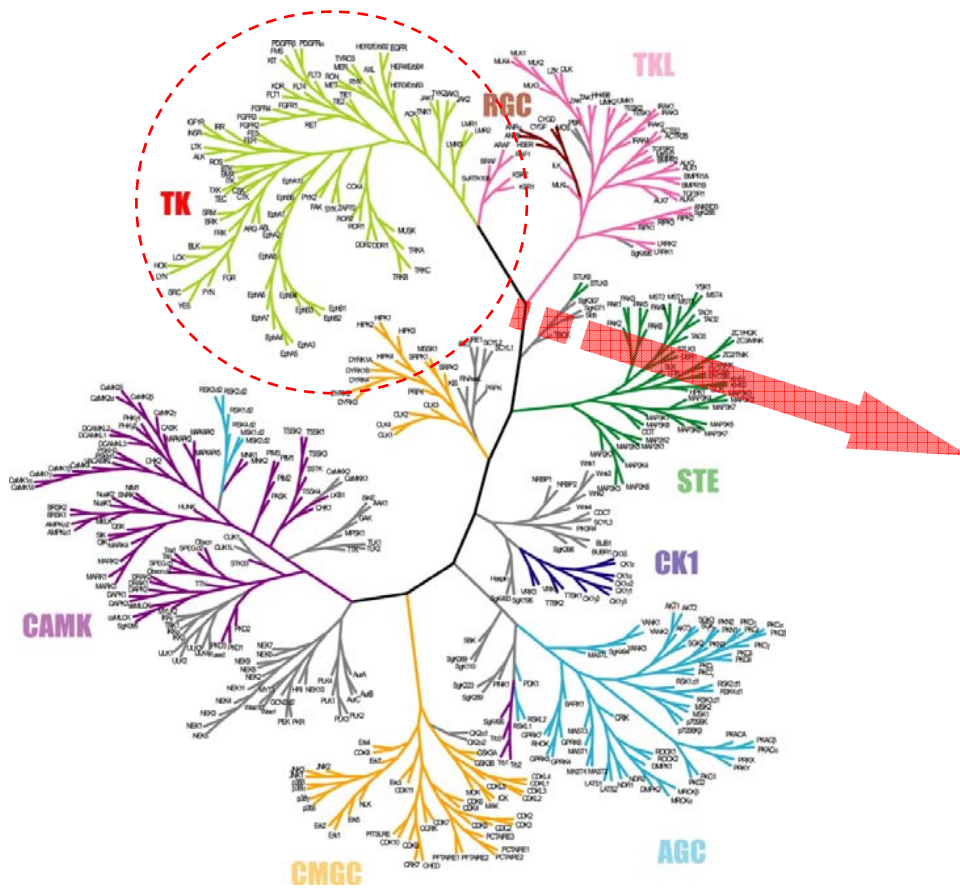
キナーゼの品質を確認する



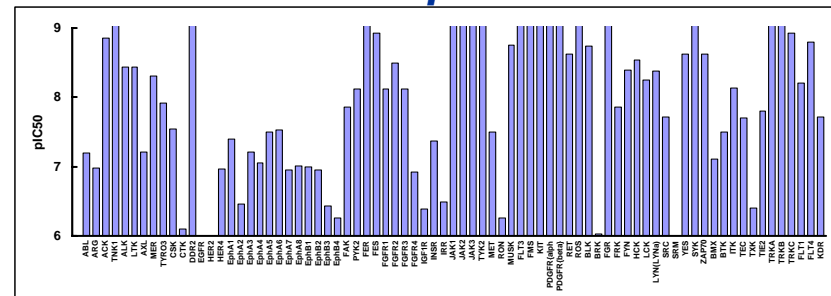
昆虫細胞からキナーゼを取り出し精製する

創薬支援事業: プロファイリング

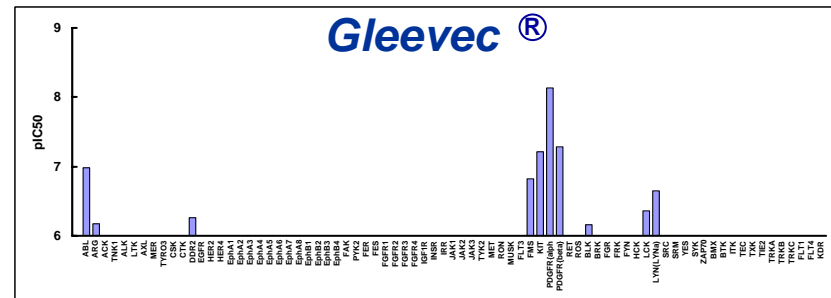
顧客が保有する化合物の各種キナーゼに対する阻害活性を測定し、その化合物のプロフィールを明らかにします。



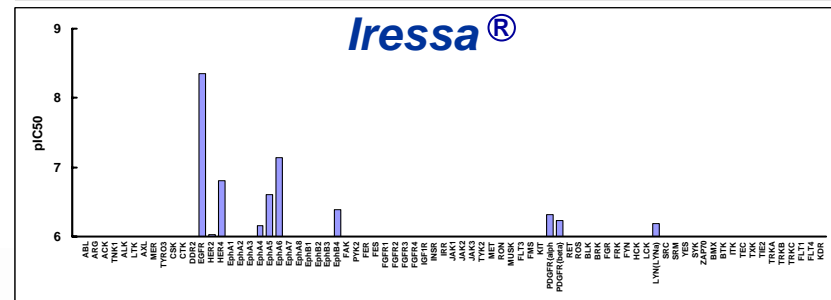
Staurosporine



Gleevec®



Iressa®



※ヒトキナーゼドメインのアミノ酸配列の類似性でキナーゼを分類、図式化しました。

顧客と
試験委託契約
締結

試験計画書を
顧客へ提出

被験物質の
受領

被試験物質
データの
暗号化

顧客の指定する
キナーゼに対する
被験物質の
阻害率を測定

試験結果報告書
の作成、送付

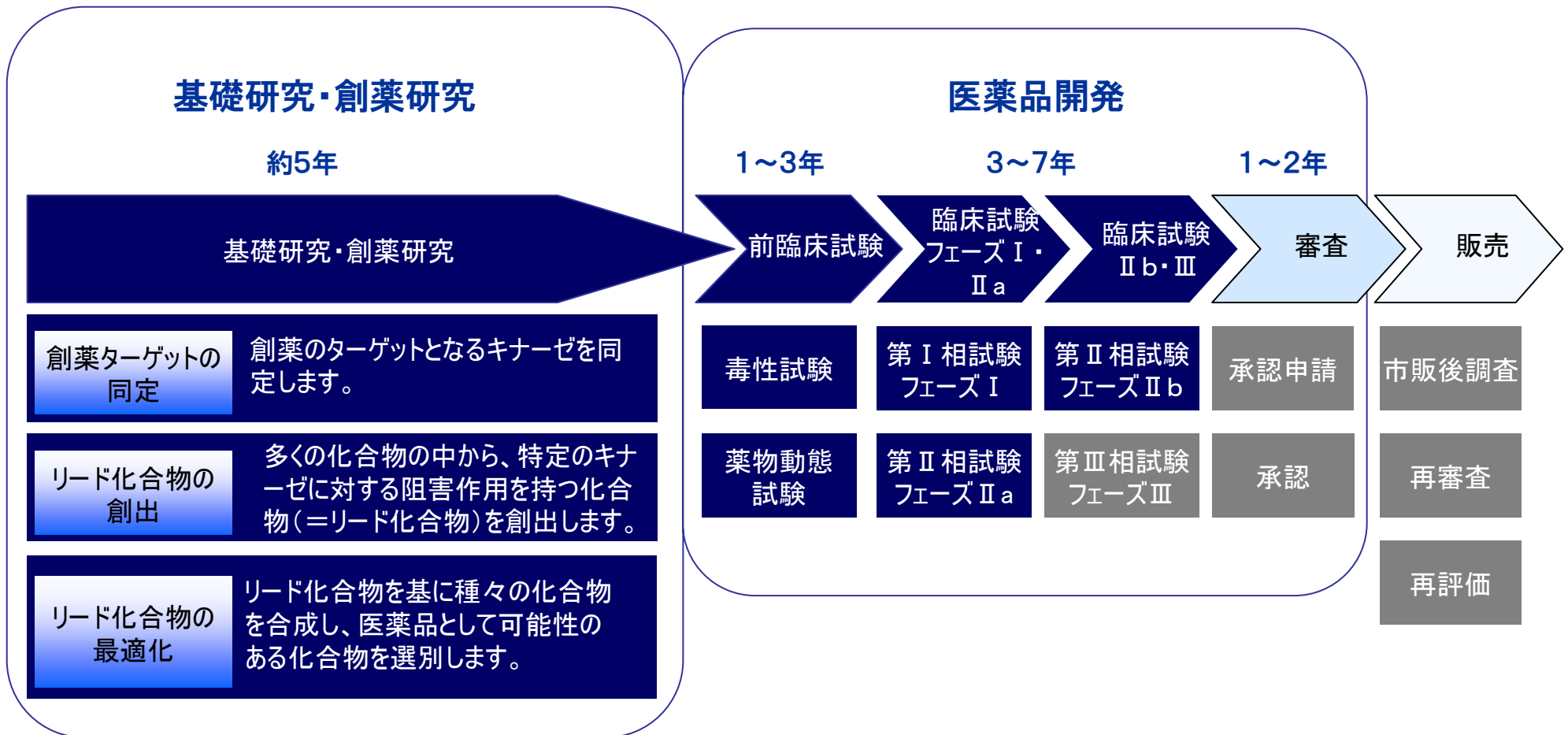


2台の分注ロボットにより288種類のキナーゼに
対するプロファイリングを効率的に行う



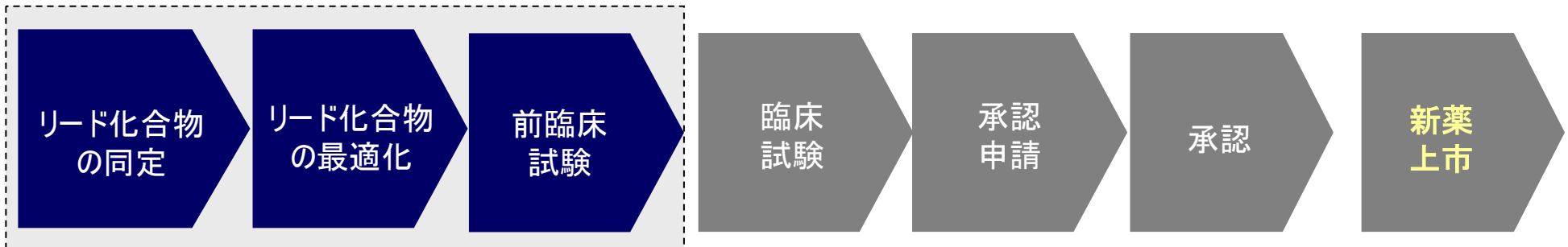
スクリーニングロボットにより、
被験化合物の各キナーゼに
対する阻害率を測定する

創藥事業



当社の創薬事業は **紺色** 部分を手がけることを基本方針としております。

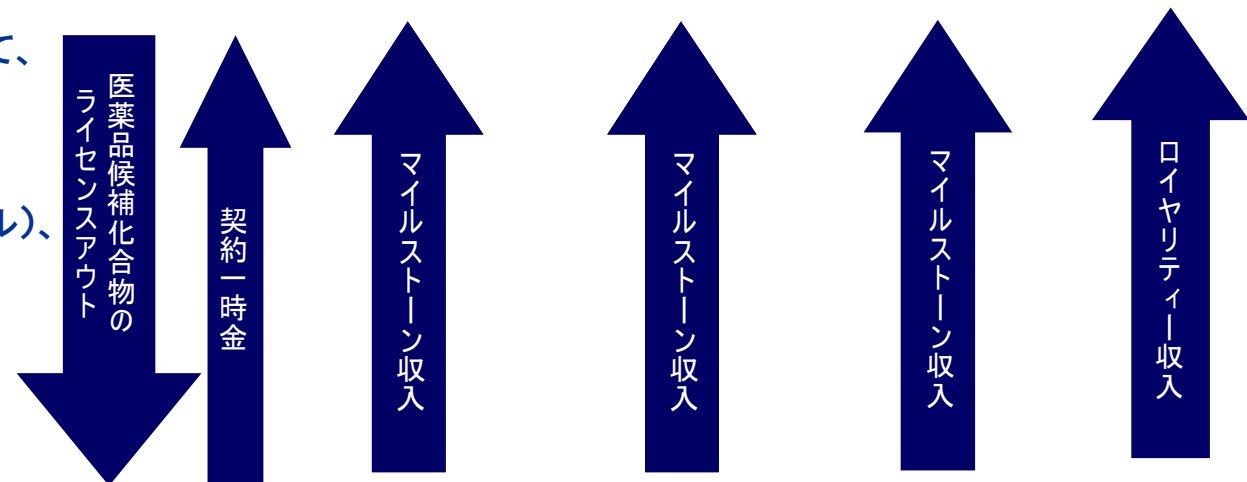
創薬事業の収益モデル①



当社の創薬事業は、上表の点線部分を手がけることを基本方針としております。

ライセンス元: カルナバイオサイエンス

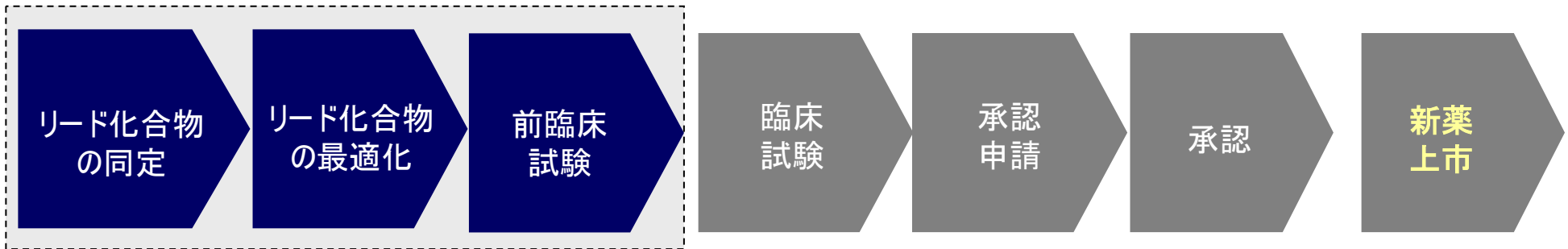
(例) Vertex PharmaceuticalsがMerck に対して、抗ガン剤(オーロラキナーゼ阻害薬)のライセンスアウトした際、契約一時金(20百万ドル)、研究費(14百万ドル)、マイルストーン収入(最大350百万ドル)を得る契約を結んだ。(04/6)



ライセンス契約先: 製薬企業

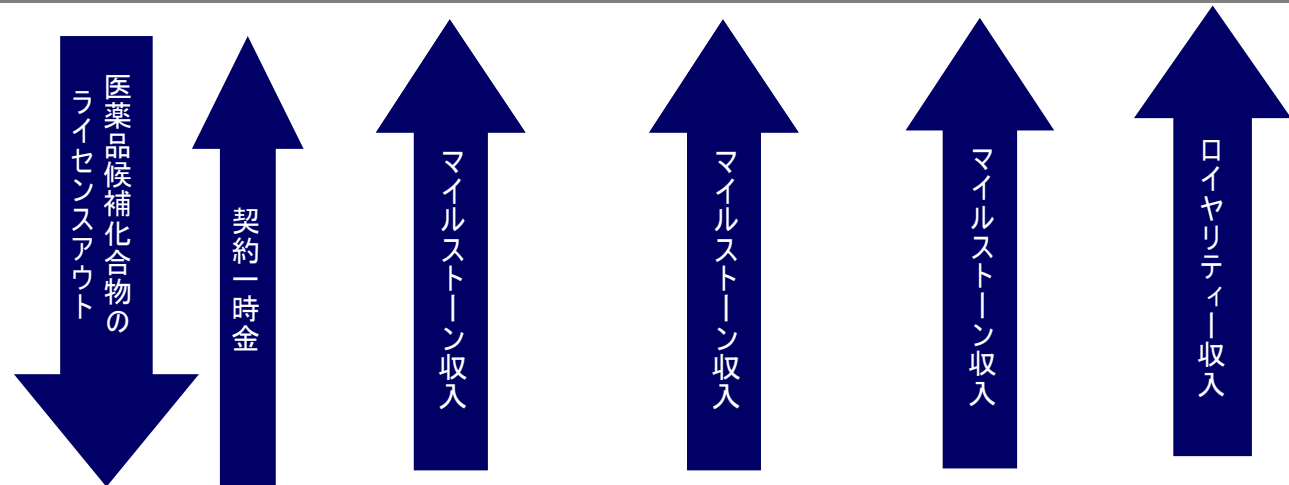
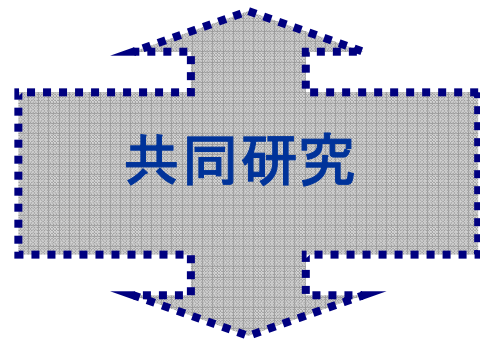
●カルナバイオサイエンスが単独で研究を始め、前臨床試験終了時からはライセンスアウトするモデル

創薬事業の収益モデル②



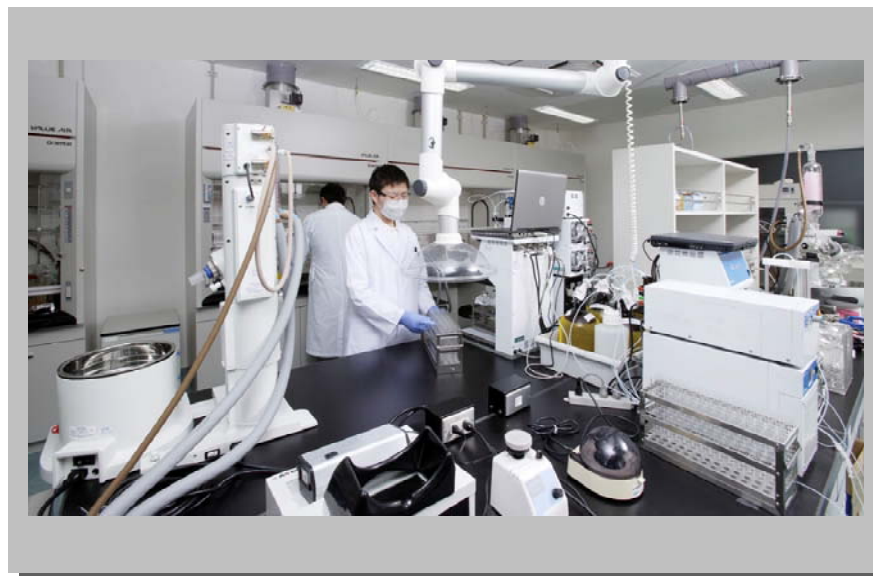
当社の創薬事業は、上表の点線部分を手がけることを基本方針としております。

ライセンス元: カルナバイオサイエンス



ライセンス契約先: 製薬企業

- カルナバイオサイエンスと製薬企業が共同で研究を始めて、前臨床試験終了時にカルナバイオサイエンスの持ち分(50%)をライセンスアウトする収益モデル



最近のニュースリリース(抜粋)①

和光純薬工業と販売代理店契約を締結

2009年1月13日発表

販売代理店契約締結に関するお知らせ

日本国内におけるキナーゼタンパク質の一層の売上拡大を推進すべく販売代理店を積極的に活用することを目的として、今般、和光純薬とキナーゼタンパク質の販売代理店契約を締結することといたしました。



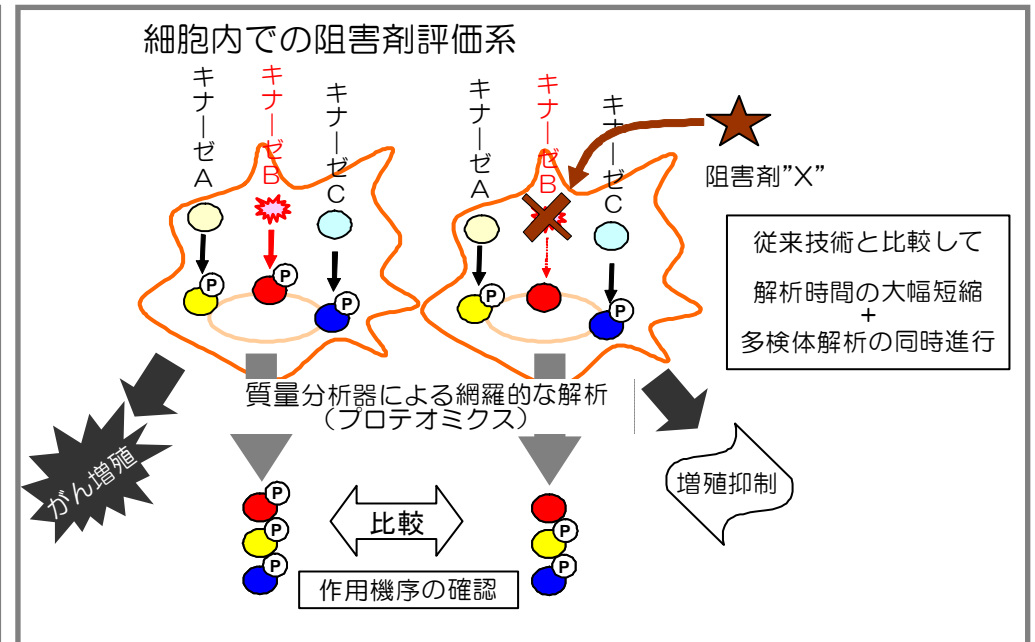
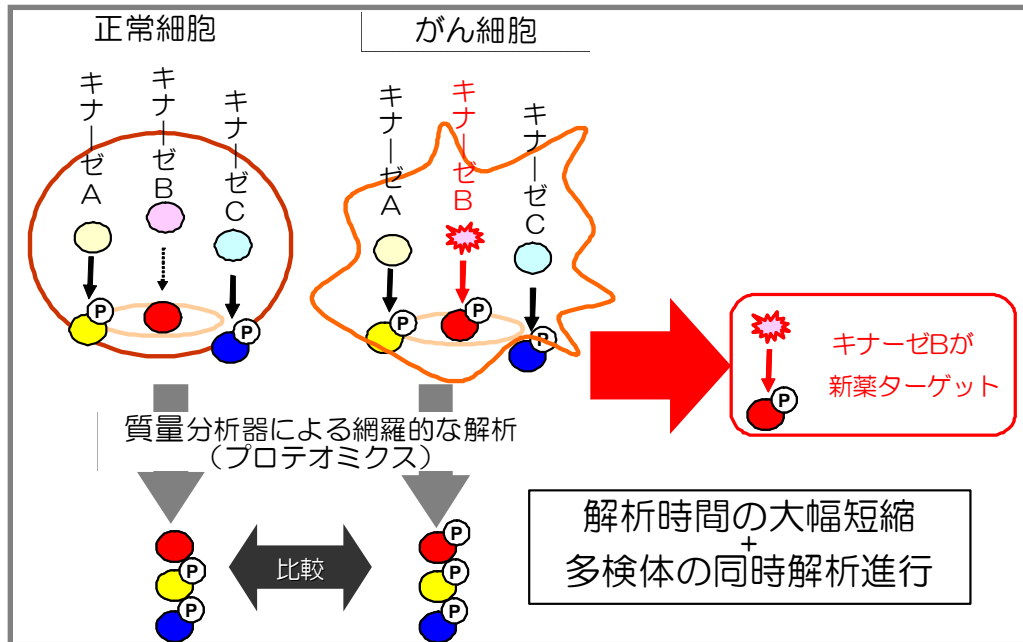
最近のニュースリリース(抜粋)②

慶應義塾大学との共同研究を開始

2009年1月14日発表

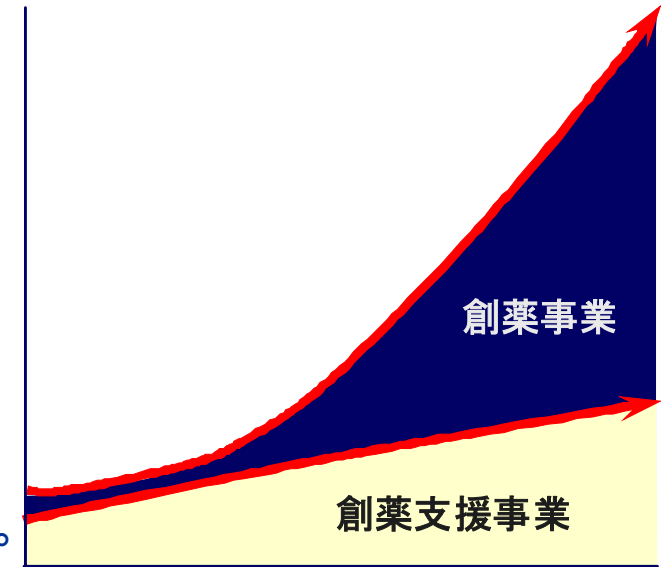
キナーゼ阻害薬の効果測定システム実用化に向けての共同研究に関するお知らせ

当社は、慶應義塾大学先端生命科学研究所(所長:富田 勝)と、多くの抗ガン剤が標的としているキナーゼの働きを解析し、キナーゼ阻害薬の効果を実用的に測定するシステムを実用化する共同研究を開始しました。



株主・投資家の皆様へ

1. 当社の創薬事業は、従来の創薬ベンチャーとは異なり、膨大なコストと開発中止のリスクが高い第3相臨床試験(PIII)以降の段階は手掛けず、それ以前のいずれかの段階で大手製薬企業に化合物を導出するビジネスモデルを想定しております。
2. 当社は創薬支援事業においては2006年度以降黒字化しております。今後も創薬支援事業での売上を伸ばすことで、2011年には、会社全体として黒字化を目指します。
3. 当社は、ガンなどを対象疾患とするキナーゼ阻害薬の創薬研究をスピーディーに進めてまいりますが、一般的には、創薬の成果が実るには長い年月がかかることをご理解下さい。
4. 中長期的には成長トレンドにあるため、カルナバイオサイエンスの株式は、中長期的視野で保有していただきたく存じます。



今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

カルナバイオサイエンス株式会社

経営管理部 IRグループ

〒650-0047

兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F

Tel (078)302-7075 Fax (078)302-6665

<http://www.carnabio.com/japanese/>

ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。